

平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	起業学(Theory of Entrepreneuring)			授業コード	A028351			
担当教員名	橋本 堅次郎、後藤 幹雄、工藤 順一、吉本 圭一郎			科目ナンバリングコード	A20206			
配当学年	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期					
必修・選択区分	選択	単位数	2					
履修上の注意または履修条件	あなた自身が起業するつもりで講義に臨んでください。							
受講心得	1、授業中の私語、携帯使用は禁止、また教室では脱帽。 2、必ず自筆のノートを作成すること							
教科書	「ベンチャー企業論」(柳 孝一、長谷川博和著)放送大学教育振興会発行							
参考文献及び指定図書	「ベンチャー創造の理論と戦略」(ジェフリー・A・ティモンズ)ダイヤモンド社							
関連科目	人間力概論、eビジネス論、マーケティング論Ⅰ、Ⅱ、マーケティング演習							

授業の目的	今、起業ないし起業支援が各方面から注目されている。日本経済を活性化するためには、自ら新しい商品(技術・サービス)を開発し、新しい市場の開拓に挑戦する「ベンチャービジネス」を始めとする独創的な新しい企業の出現が大きく期待されている。本講座ではベンチャーを起こす意味や社会背景について理解すると共に、学生によるベンチャ一起業家を育成するために、豊かな発想力や行動力をどのように養成したらよいのか、さらには資金面やマネジメントの問題をどう解決すればよいのかなどについて学ぶ。独立して企業を立ち上げることは夢かもしれない。しかし事業を成功に導いた人たちには、さまざまな成功則が存在している。本講座ではこれら様々な成功則にのっとりチームまたは個人で起業の準備、ビジネスモデル作成、事業計画などの起業プランを作成し、その立案結果を発表・プレゼンテーションするなど実践を通じて起業のやり方について理解を深める。
授業の概要	

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週： 第1回 何故「起業学」を学ぶのか 起業学を始めるにあたって企業を立ち上げることにどのような意味があるかについて考える。バブル崩壊から16年経った今でも日本の経済は依然低迷を続けている。グローバリゼーションや情報技術の革命的進歩、さらには規制緩和が進む中、新しいビジネスモデルや技術の開発によるベンチャービジネスの台頭が待たれている。自由主義経済を支え、牽引するのは絶え間なくイノベーションを追求する起業家の存在である。	各回、資料を配布し、復習に使用できるようにする。
第2週： 1回目の続きとして、ベンチャービジネスについて具体的な事例を取り上げながら学んでいきます。大分県の、ベンチャー企業を紹介し創業の面白みと大変さを学びます	
第3週： ベンチャー企業の最大の問題は「イノベーションに基づく新規性のある商品やサービスの提供」であるがゆえに市場で受け入れられるかどうかのリスクが高い事である。そこで必要なのが起業家のための経営学である。	
第4週： 起業家はどのようなバックグラウンドの中から輩出されるのだろうか？生まれ育った環境や学歴・職歴などを検証する。又、成功する起業家に共通する特徴についても検証し、起業家の持つべき「起業力」について考える。	

第5週 : 具体的な企業を紹介しながらそのポイントを解説する。		
第6週 : ベンチャー企業の最大の問題は「イノベーションに基づく新規性のある商品やサービスの提供」であるがゆえに市場で受け入れられるかどうかのリスクが高い事である。そこで必要なのが起業家のための経営学である。		
第7週 : 具体的な企業を紹介しながらそのポイントを解説する。		
第8週 : 日本の戦後のベンチャービジネスについて学ぶ。戦後すぐの日本は社会の大きな転換期で、開放感と夢に溢れていた。「社会の大きな転換期には多くのベンチャーを輩出する」という法則があるが、日本の戦後もベンチャー企業を続々と輩出している。その後2次にわたるオイルショックを乗り越えて70年代、80年代にベンチャーブームが現出する。		
第9週 :		
第10週 : 創業を思い立った日から実際に創業するまでの間には、クリアしなければならないハードルが沢山ある。そこで、基礎知識の第1回目は、創業者としての心構え、事業計画の作成等について大分県の創業事例を取り上げながら学ぶ。		
第11週 : ボストン郊外の「ルート128沿い」とカルフォルニアの「シリコンバレー」から始まったアメリカのベンチャービジネスの歴史について学ぶ。MITやスタンフォードなどに代表されるアメリカの大学と産業界の連携によるベンチャービジネスの推進は大きな成果を上げている。又、先端技術の研究機関もベンチャービジネス輩出に大きく貢献している。		
第12週 : 創業企業の具体例について学びます。		
第13週 : 個人創業と法人での創業の違いや、創業に関わる税金等について学習します。		
第14週 : ベンチャーキャピタルは起業家にとっても、ベンチャー企業にとっても極めて重要な支援機能を果たしている。アメリカのベンチャーキャピタルの歴史をたどりながら、アメリカのベンチャー企業の発展を支えたその活躍ぶりについて解説する。		
第15週 : これまで学んできた起業学について、総括します。		
第16週：期末試験 講義の要点を理解できているかを確認します。配布資料だけでなく、講義で黒板に書いた内容からも出題しますので、ノートはしっかりとつけてください。		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」
	(3)アクティブラーニング	
地域志向科目	該当しない	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標

【関心・意欲・態度】	起業への関心を高め、起業についての意欲を持つ。また外部のベンチャービジネスコンテストなどへ挑戦するきっかけとする。
【知識・理解】	起業の歴史、実際のベンチャー企業への理解を深め、起業に関わる会計などの周辺知識を習得する。
【技能・表現・コミュニケーション】	レポートや試験の記述を通して、論理的な表現能力を高める。
【思考・判断・創造】	起業についての幅広い思考能力を高め、まつ起業への創造力、判断力を高める。

○成績評価基準(合計100点)

到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	10点		
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	50点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点		
【思考・判断・創造】 ※「考え方」を含む。	30点		
(「人間力」について)			
※以上の観点に、「こころの力」(自己的能力を最大限に發揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。			

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	